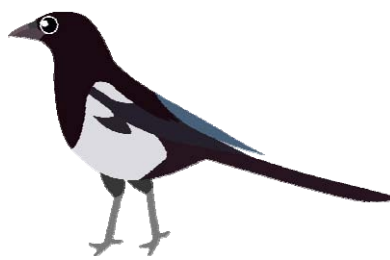
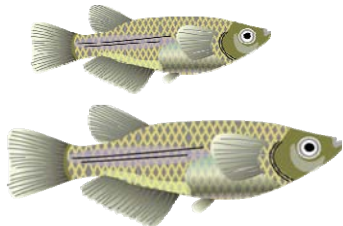


春日市のいきものの

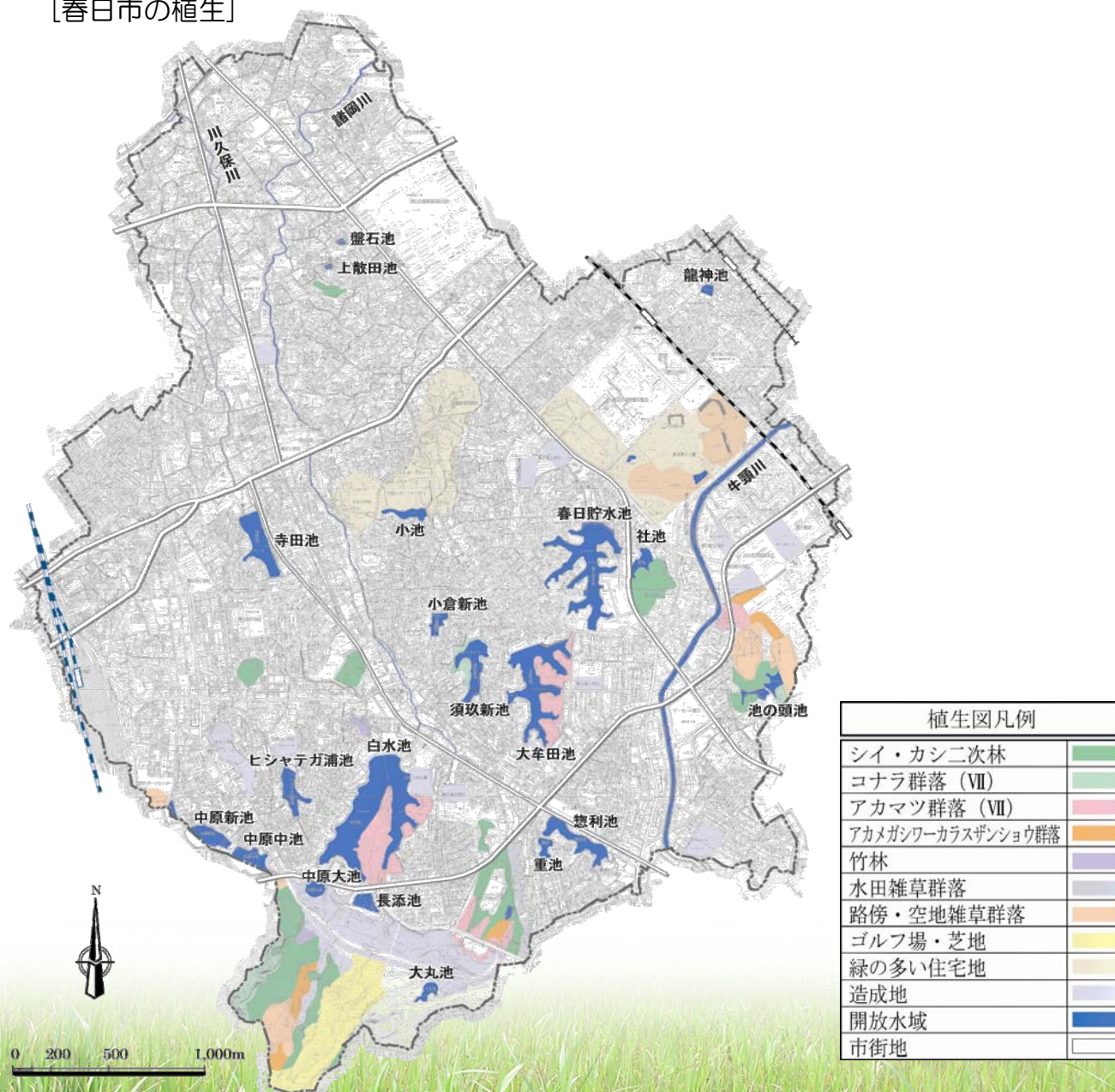
		
		
		—もくじ— 1. 春日市の自然 1 2. みどいのはたらき 3 3. 水辺のはたらき 5 4. まちに適應したいきもの 7 5. 貴重ないきもの 8 6. 春日市の公園に出かけよう .. 9 7. 春日市生き物マップ 14

1. 春日市の自然

私たちの住んでいる春日市は、日本の中でも早くから米作りが行われた農業のさかんな地域でした。米作りにはたくさんの水が必要です。筑後川などの大きな川に恵まれなかった私たちの先祖は、水を得るためにたくさんのため池を作りました。かつて、その数は100を超えていたそうです。“水とみどりのまち”、今から80年前の春日市は、山林と田んぼとため池の広がるのどかな農村地帯でした。

その後、次第に都市化が進み、今では山林も田んぼもずいぶん少なくなりました。ため池も20箇所が残るのみです。このような中、春日市にはどのようないきものがあるのでしょうか。またどんな生活をしているのでしょうか。

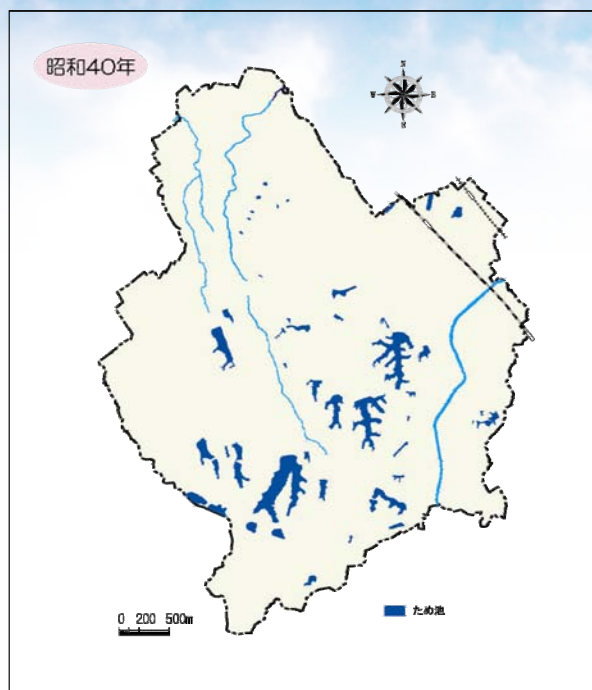
〔春日市の植生〕



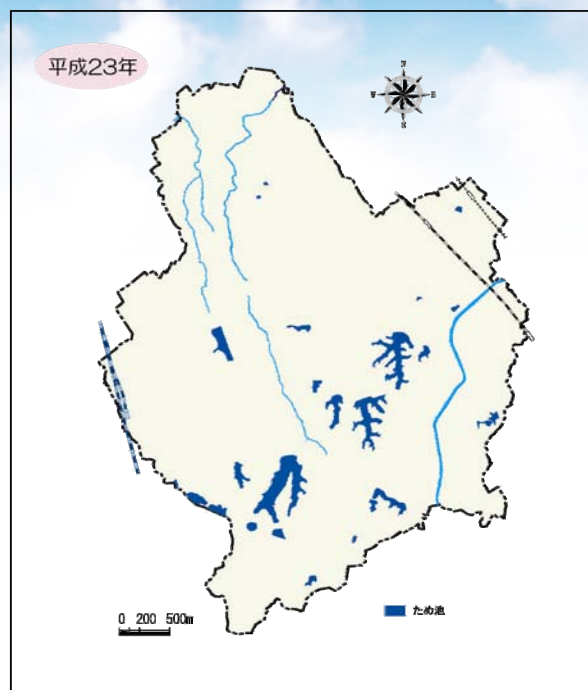
◎春日市のため池の移り変わり

春日市のため池は、かつては 100箇所以上存在していましたが、現在では 20箇所が残るのみです。現在、これらのため池は、市のため池保全 条例 で守られています。

下の左の図は昭和 40 年 9 月のため池の 状況 で、右の図が現在のため池の 状況 です。



参考資料：昭和 40 年 9 月測図春日町全図資料

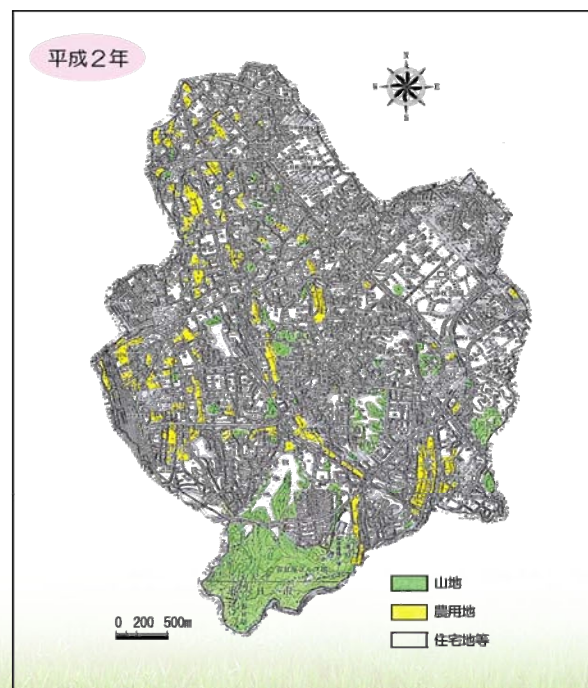
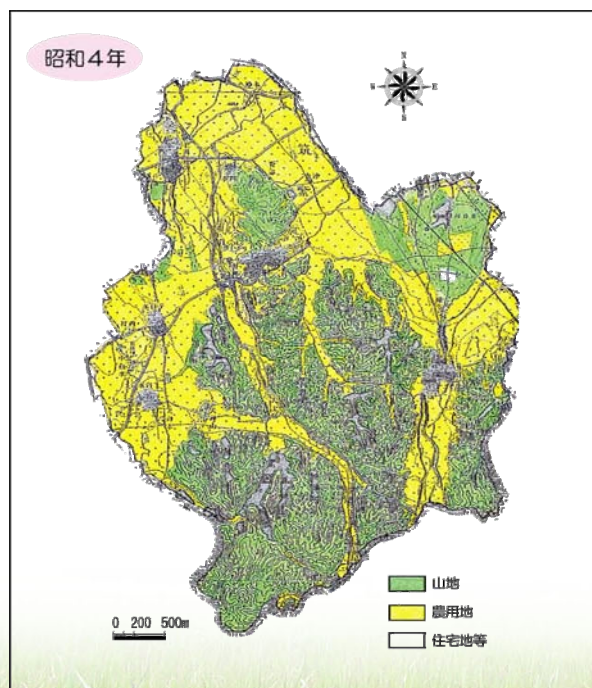


参考資料：春日市環境基本計画策定業務基礎調査報告書

◎春日市の土地利用の移り変わり

下の左の図が 80 年前の土地利用のようすで、ほとんどが農用地や山地でした。

右の図が 20 年前の土地利用のようすで、農用地や山地が少なくなり、住宅地が増えています。



参考資料：春日市環境基本計画策定業務基礎調査報告書（平成 12 年 3 月）を一部改良

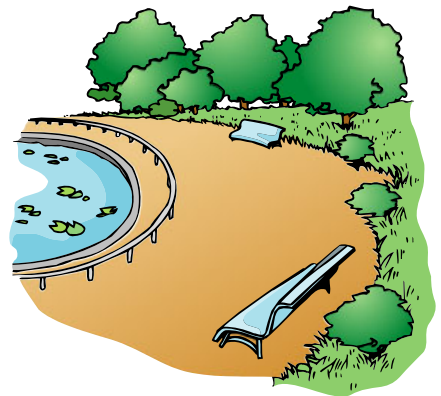


2. みどりのはたらき

春の芽吹きや木漏れ日の中の散歩に気分がいやされたことはありませんか？みどりは私^{わたし}たちの生活に潤^{うるお}いを与^{あた}えてくれるだけでなく、いきもののすみかとしても重要です。

春日市の写真を見てみましょう。市内にはまとまった山林はありませんが、公園や神社の森などがオアシスのように光っているのが分かります。

これらのみどりは街路樹^{がいうじゅ}のみどりで網^{あみ}の目のようにつながっていて、南部の山林（ゴルフ場）からいきものが行き来できる道を作っています。そのため、まちなかであっても、多くのいきものとであえるチャンスがあるかもしれません。



資料：国土画像情報（カラー空中写真）国土交通省

■春日市のみどりの中で生活するいきものたちを紹介します。

◎ 神社の樹林地 神社は昔ながらの自然な森の姿をかいま見ることができます。

■アオバズク



九州環境管理協会

大きな木の穴で子育てするフクロウの仲間です。夜間に「ホッポーホッポー」と鳴きます。

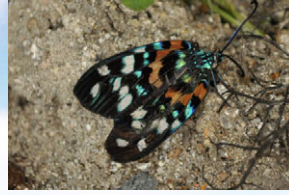
■アナグマ



九州環境管理協会

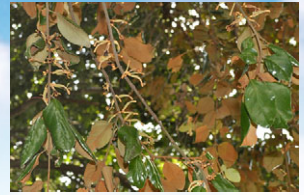
森林に住み、50～100mに達する複数の入口がある巣穴を掘って生活しています。春日市では、春日神社にいたことが確認されています。

■サツマニシキ



ガの一種ですが、大変美しい姿をしています。幼虫はヤマモガシの葉を食べます。春日神社で見られます。

■オオバヤドリギ



他の木から養分をもらう寄生植物です。春日市では熊野神社のオオバヤドリギとして、市の天然記念物に指定しています。

◎ 公園の樹林地 春日市の大きな公園では、山にすむいきものも見られます。

■ヤマガラ



九州環境管理協会

クチバシのものと部分から胸にかけて黒い帯模様があります。白水大池公園などの樹林地帯に生息しています。

■ムクドリ



九州環境管理協会

オレンジ色のくちばしと白い顔が特徴です。市街地では街路樹を集団でねぐらとして利用している姿も見られます。夕方の場所取りはにぎやかです。

■アライグマ



愛くるしい顔をしていますが、成獣になるにつれ気性が荒くなり注意が必要です。特定外来生物に指定されています。

■イタチ



九州環境管理協会

小柄な体格ながら、ネズミや小鳥を食べる肉食獣です。道路の側溝などを駆けてゆく黄色っぽい後ろ姿を見かけることがあるかもしれません。



コラム

■みどりはたらきからのクイズです

みどりはいきもの大切な生活の場です。しかし、スペースの少ないまちなかでは、みどりを増やすのはむずかしいことです。そこで、次のような考え方をもとに効果のあるみどりの配置を考えることが必要です。みなさんも森の中のいきものになったつもりで、どちらのみどりが生活しやすいか考えてみて下さい。

〈問題〉 どちらのみどりがいきものの生活の場としてよいでしょうか。
(1)～(4)それぞれで考えてみましょう。

(1)



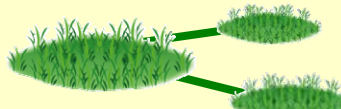
①大きな1つのかたまり

(2)



①お互いが近い

(3)



①みどりの間を街路樹がたなく

(4)



①細長い



②小さく分かれる



②お互いが離れる



②みどりの間に何もなし



②まると近い

〈答え〉 (1) ① (2) ① (3) ① (4) ②



3. 水辺のはたらき

春日市のため池は、昔と比べるとずいぶん少なくなっていました。しかし、周辺のまちと比べると、まだまだ多くのため池が残されています。ため池や川には水辺がすきな生き物が生活していて、山林とはちがう種類のいきものにであうことができます。

また、川やため池の周りには湿地やみどりが残されていることが多く、まちなかのみどりと同じようにいきものの行き来できる道、水とみどりのネットワークとしてはたらいしています。

かみさんでんいけ
■上散田池



奴国の丘歴史公園内にあります。

■白水池



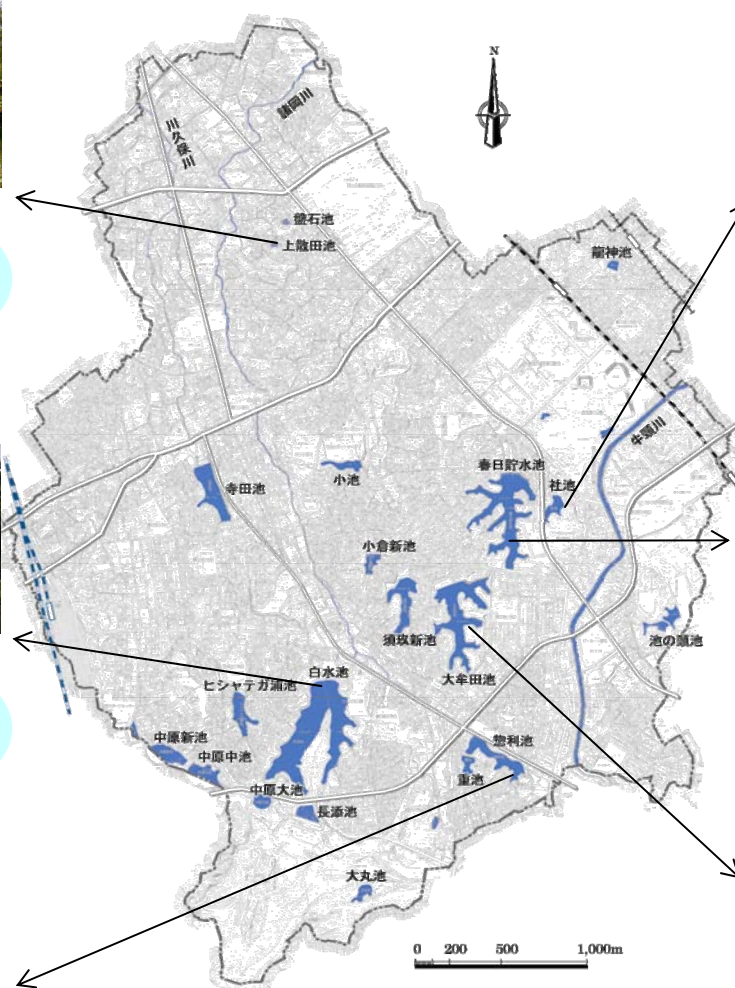
白水大池公園内にあり、周遊歩道があります。冬季には越冬のため多くのカモが渡来します。

そうりいけ
■惣利池



オオカナダモが群生し、ブルーギルが泳いでいます。

春日市のいろいろな水辺



やしろいけ
■社池



スイレンなどの水草の種類の多い自然豊かなため池です。春日神社の森とともに多くの動植物が生活しています。

■春日貯水池



春日市民の飲み水をたくわえるため池です。まちなかのため池とは思えないほど、きれいな水をたえています。

■大牟田池



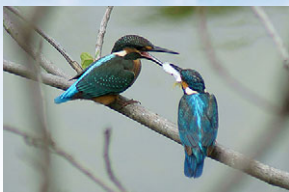
白水池に次ぐ2番目に大きな池です。周囲は住宅地に面しています。

■春日市の水辺で生活するいきものたちを紹介します。

◎ 河川で生活するいきもの

水辺にはカワセミやサギ類などがきます。川の中ではギンブナやカマツカなどの魚を見ることができます。

■カワセミ



■サギ類(コサギ)



■ギンブナ



■カマツカ



■ナマズ



■モクズガニ



■スズエビ



◎ ため池で生活するいきもの

ため池ではカメの姿を見ることができ、冬にはカモ類が越冬のためにやってきます（春日市には 10 種程のカモが来ます）。

■アカミガメ



■キンクロハジロ



■ハシビロガモ



■マガモ



■ヨシガモ



■ヒドリガモ



■コガモ



■ホシハジロ



コラム

■ため池を保護しています

典型的な農村地帯であった春日市も、都市開発のため、次々にため池が埋め立てられていきました。そんな中、環境保護議論の高まりや市民団体の熱心な活動により、昭和 60 年 6 月、「春日市溜池保全条例」が作られました。

全国でも珍しい、この「溜池保全条例」は、ため池とその周辺の自然環境の保護を目的としています。春日市の自然環境の維持に役立っています。



できおう 4. まちに適応したいきもの



まちの環境は多くのいきものにとって危険が多く、食べ物も少ないなど、決してよい環境とはいえません。ところが、このような過酷な状況をうまく利用して、逆にまちなかで増えているいきものもあります。人の気配のあるところで子育てをして、人に外敵を追い払ってもらったり、人の食べ残しを利用したり、いきものの意外な一面を観察してみましょう。

できおう しょうかい ■ まちに適応したいきものや植物を紹介します。

◎ カササギ



(財)九州環境管理協会

カササギは、九州北西部の佐賀平野・筑紫平野を中心とした狭い地域にかぎられていましたが、糸島市や福岡市西部にまで少しずつ生息域を増やしています。春日市でも、市南東部の平田台を中心に目撃されており、1月～3月頃には電柱への営巣（九州電力が巣立ちまで管理）も見ることができます。

◎ タンポポ



タンポポは明治時代に日本に持ち込まれた外来種と、日本に古来から生育していた在来種があります。

外来種は年中花が咲き、花粉がつかなくても種子ができます。また乾燥した過酷な場所でも生育します。一方、在来種は春にしか花が咲かず、受粉しなければ種子ができません。また都市部の環境にはあまり適応できないため、春日市で見られるタンポポは、ほぼ外来種です。

◎ その他、人の近くで生活するいきもの

■ ツバメ



(財)九州環境管理協会

■ スズメ



(財)九州環境管理協会

■ ドバト



(財)九州環境管理協会



5. 貴重ないきもの

昔はたくさんいたいきものも、それまであったすみを追われたことで、どんどん姿が見られなくなりました。また、わたしたちがペットや観賞用に連れてきた外国生まれのいきもの（外来生物）が、野外に逃げ出したことで数が減ったものもあります。

春日市では、お寺や神社の森など、古くからの自然が残されている場所や昔ながらのため池などに貴重ないきものがわずかに生息しています。

■春日市に生息している絶滅のおそれのあるいきものを紹介します。

◎ お寺や神社の森にいるもの

■アオバズク



(財)九州環境管理協会

【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類

■アナグマ



(財)九州環境管理協会

【福岡県】準絶滅危惧

◎ 昔ながらのため池にいるもの

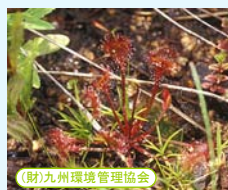
■オニバス



(財)九州環境管理協会

【環境省】絶滅危惧Ⅱ類
【福岡県】絶滅危惧ⅠB類

■モウセンゴケ



(財)九州環境管理協会

【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類

■メダカ



(財)九州環境管理協会

【環境省】絶滅危惧Ⅱ類
【福岡県】準絶滅危惧

◎ 河川にいるもの

■オヤニラミ



(財)九州環境管理協会

【環境省】絶滅危惧Ⅱ類
【福岡県】準絶滅危惧

■ニホンイシガメ



(財)九州環境管理協会

【環境省】情報不足
【福岡県】準絶滅危惧

■カワヂシャ



(財)九州環境管理協会

【環境省】準絶滅危惧
【福岡県】準絶滅危惧

■ヤマトシマドジョウ



(財)九州環境管理協会

【環境省】絶滅危惧Ⅱ類

■春日市の昔ながらの自然を壊すおそれのある外国生まれのいきもの（外来生物）を紹介します。

ー外来生物は、春日市のいきものを食べたいすみを奪ってしまっていますー

■ブラックバス



(財)九州環境管理協会

■ブルーギル



(財)九州環境管理協会

■アライグマ



■オオキンケイギク



■ホテイアオイ



6. 春日市の公園に出かけよう

春日市には、大小さまざまな公園があります。それぞれの公園にはそれぞれの環境^{かんきょう}に応じたいきものが見られます。

ここでは、いきものの観察に利用しやすい春日公園、白水大池公園、奴国^{なこく}の丘^{おか}歴史公園の3つの公園の見どころを紹介^{しょうかい}します。

春日市の公園で自然観察・調査にチャレンジ！

- 頭を守るため帽子^{ぼうし}をかぶろう！
- 植物にかぶれたり、虫にさされないように長そで・長ズボン^{じょうぶ は}に丈夫^{くつ}で履きなれた靴^{はきゅう}で出かけよう！
- こまめに水分補給^{ほきゅう}をしよう！

ぼうし
帽子⇒

長そで上衣⇒

長ズボン⇒

くつ は
靴は履き
なれたもの⇒



ひつようなもの

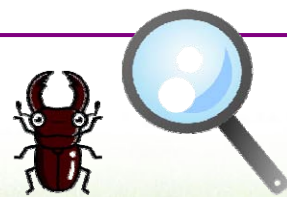
- ・ 水筒^{すいとう}
- ・ タオル
- ・ ティッシュ
- ・ ノート
- ・ 筆記用具
- ・ ビニール袋^{ぶくろ}
- ・ 救急薬品

あったら良いもの

- ・ カメラ
- ・ 双眼鏡^{そうがんきょう}
- ・ 図鑑^{ずかん}
- ・ 虫めがね
- ・ 虫とりあみ
- ・ 虫カゴ

いろいろ観察してみよう！

- よく見てみよう（双眼鏡^{そうがんきょう}や虫めがねがあると便利だよ）
- におってみよう（花や昆虫^{こんちゅう}など特有のにおいがあるよ）
- さわってみよう（重さ、硬さ^{かた}、ざらつきなどを感じよう）
- 自然の音を聞こう（野鳥のさえずり、虫やカエルの鳴き声などをきいてみよう）
- 記録^{さいしゅう}しよう（採集^とする、カメラで写真を撮る、大きさを測ったりして記録しよう）



春日市の公園へのアクセス

駐車場情報

- 奴国の丘歴史公園
1箇所 普通車22台 中型1台
9:00~16:30 入館可能
- 春日公園
5箇所 普通車356台 大型13台
- 白水大池公園
【平・日】2箇所 普通車173台 大型5台
【土・日】4箇所 普通車217台 大型5台

奴国の丘歴史公園

コミュニティバス
やよい 桜ヶ丘線
「奴国の丘歴史資料館前」下車

春日公園

JR 春日駅下車徒歩
約10分、
コミュニティバス
やよい 春日原線
「春日公園前」下車

白水大池公園

JR 春日駅から西鉄バス「松ヶ丘入口」徒歩5分、
コミュニティバス やよい 上白水線「白水大池公園
噴水前」または「白水大池公園ちびっこ広場前」下車

— 桜ヶ丘線
— 春日原線
— 上白水線

春日市「コミュニティバスやよい」とは市内を巡回するバスです。

バスセンターを基点として、左回り、右回りが交互に運行します。始発が午前9時、
終発が午後7時で年中無休です。運賃は小学生以上は一律100円です。この図以外にも、
沢山の停留所があります。もよりのバス停や発車時刻などは(092) 595-6475 (西鉄
バス二日市) に問い合わせてください。また下記の携帯アドレスや QR コードからも、
時刻表・路線図をみるができます。

●携帯アドレス <http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/jikoku/>

QR コード



春日公園

いろいろないきもの

30ヘクタールもの広大な面積を持つ県営公園です。2つの水辺のほか、^{しばち}芝地や^{じゅりんち}樹林地、田んぼなど、公園内には色々な^{かんきょう}環境があります。^{かんきょう}環境の種類が多いほど、いろいろな種類のいきものにであえるチャンスが多くなります。春日公園は市内でも有数のさまざまな^{かんきょう}環境のある公園です。

自然風公園

自然風公園には、^{きゅうしょうぶえん}旧菅蒲園に田んぼビオトープが造られ、トンボやヌマガエルなどが生息しています。

■日本庭園



■田んぼビオトープ



リスアカネ



ヌマガエル



シオカラトンボ



コガタズメバチ



ウラナミシジミ



資料：「国土画像情報（カラー空中写真）昭和62年度」国土交通省

芝生広場

^{しばふひろば}芝生広場の周りにはアカマツ林やコナラ林など多様な^{しょくさい}植栽が野鳥の^{えさば}餌場になっており、調整池は水鳥や昆虫のすみかになっています。

■芝生広場



調整池

■調整池



オンブバッタ



ムーアシロホシテントウ



メダカ



スクミリンゴガイ卵塊



マガモ



コサギ



白水大池公園

カモの仲間と山の鳥

春日市でも最大規模を誇るため池周辺に整備された公園です。カモの仲間をはじめとする水辺のいきもののほか、周辺の自然が残される樹林地には、まちなかでは見られなくなった山の鳥や昆虫が生活しています。

ため池

広い水面にはカモの仲間や、魚をねらうミサゴ、水辺にはアカミミガメやウシガエルがみられます。

ミサゴ



ウシガエル



ドブガイ



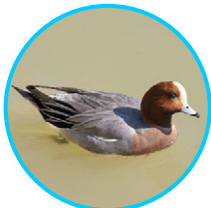
アカミミガメ



■白水池



ヒドリガモ



マガモ



資料：「国土画像情報（カラー空中写真）
昭和 62 年度」国土交通省

周遊歩道

ため池を中心に周遊歩道があり、さまざまな森の鳥がみられます。

■周遊歩道



メジロ



展望台

展望台の上からは公園が一望できます。周辺には昆虫も多くみられます。

■白水池



チャバネアオカメムシ



チョウセンカマキリ



ムシヒキアブ



な こく おか 奴国の丘歴史公園

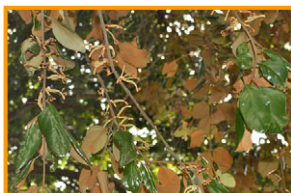
とその周辺
草地のいきものとオオバヤドリギ

くまのじんじや 熊野神社

くまのじんじや
■熊野神社



■オオバヤドリギ



シジュウカラ



草 地

■タンポポ



ハクセキレイ



(財)九州環境管理協会

ムクドリ



(財)九州環境管理協会

ドバト



(財)九州環境管理協会

ツマグロヒョウモン



ヤマトシジミ



広い芝生と2つのため池が特徴の公園です。
また、すぐ近くに市指定の天然記念物のオオバヤドリギが生育する熊野神社があり、緑の多い街路を行き来する間にも、鳥や昆虫にであえます。

広々とした芝地は気持ちよく、春のタンポポの咲き乱れる頃はきれいです。

ため池

盤石池は人工的な池で、コイやカダヤシが見られます。上散田池ではウシガエル、アカミミガメなどが生息しています。

ばんじやくいけ
■盤石池



かみさんでんいけ
■上散田池



スイレン



コイ



資料：「国土画像情報（カラー空中写真）
昭和62年度」国土交通省

7. 春日市生き物マップ

春日市でみられる生き物の分布をマップで紹介しょうかいします。平成 22 年から 23 年にかけての調査ちようさの結果で作ったマップです。

マップをたよりに生き物に会いに行ったり、自分なりの平成〇〇年マップ作りにチャレンジしてみてください。

マップで紹介する生き物しょうかい

- カモ類 15
- カササギ 16
- 小型～中型哺乳類ほにゅうるい 17
- シジュウカラ・ヤマガラ・ウグイス 18
- アオバズク・フクロウ 19
- タンポポ 20
- カワセミ 21
- メダカ・カダヤシ 22



●白水池（写真1）
市域の南部にある市内最大の池で、多種、多数のカモを呼び込む魅力のある池となっています。白水大池公園内にあり、池の周囲は、住民の散歩コースとなっています。



●小池（写真2）
市域の中部にある大谷ふれあい公園の南にある池です。数種類のカモが渡来しており、ふれあい公園側から安全に池をながめることができます。



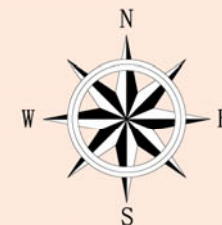
●重池（写真3）
市域の南東部の住宅街の中にある池です。そんなに大きくはない池ですが、ヒドリガモ、ハシビロガモが多く見られます。また、まれにヨシガモやカモではありませんがオオバンも見られます。

(財)九州環境管理協会



●キンクロハジロ

その名のとおり目が金色で、頭、首、胸、背中が黒、腹部が鮮やかな白というコントラストの美しいカモです。全長約43cm。後頭には垂れ下がった冠羽があります。春日市には冬鳥として渡来します。雄は「クルル、クルル」と鳴き、雌はあまり鳴きません。潜水して貝類、甲殻類、水生昆虫などの動物質のものを、水草など植物質の餌を食べます。



春日市生き物マップ

その他

カモ類は溜池などの水辺を代表する種です。姿・形は似ていますが、種により食物や生息環境の好み異なります。そのため、確認された種類や数で水辺の多様性や、環境の状況が評価できます。

冬季は越冬のため、種数、個体数ともに多くのカモ類が観察できます。春日市では、マガモ、ヒドリガモをはじめ、7種のカモが生息しています。まちなかの池や川などみなさんの住んでいるすぐ近くにもいるので、是非足をはこんで見て下さい。

(財)九州環境管理協会



●ハシビロガモ

クチバシが大きくて目立つのが特徴です。クチバシの内部がクチ状になっていて、黒などをこして食べます。全長約50cm。雄の頭部は緑色光沢のある黒、首から胸は白、脇と腹は茶褐色です。いつもいそがしく探検している印象があります。鳴き声は「クエツ、クエツ」と鳴きます。

(財)九州環境管理協会



●マガモ

カモの中のカモという意味で、マガモの名前がつけられています。落着いた色合いで、色彩的にも魅力的なカモです。全長約60cm。雄は緑色光沢のある黒で、白い首輪があり、胸はブドウ色です。主に冬鳥として渡来します。鳴き声は「グエツグエツ」、または「グエーグエー」という大声も出します。

(財)九州環境管理協会



●ヨシガモ

中形のカモで、雄の後頭の羽毛は伸びて、ナポレオンの帽子のような形になっています。頭の色が紅紫色と緑色の光沢のある黒が特徴です。全長約50cm。喉は白くて、黒の横線があります。体は灰色、三列横切は長くて、鎌のような形に垂れています。雄の両側に黄白色と白の斑があります。「ホーイ、ホーイ」と鳴きます。

(財)九州環境管理協会



●ヒドリガモ

首が黄色く水上では尾を上げた姿が印象的なカモです。全長約48cm。中形のカモで、クチバシは短く、首も短いのが特徴です。雄の頭部は茶褐色で、額から頭頂は黄白色が目立ちます。春日市には冬鳥として渡来します。雄は「ビューイー、ビューイー」という口笛のような比較的大きな声で鳴きます。

(財)九州環境管理協会



●コガモ

文字通り小さいカモという意味でコガモです。全長約38cm。小さくてかわいらしく、雄の頭部は茶色と緑で彩りがきれいです。体は灰色です。春日市では冬鳥として渡来します。鳴き声は雄が「ピリッ、ピリッ」、雌は「グエツ、グエツ」と鳴きます。

(財)九州環境管理協会



●ホシハジロ

赤褐色の頭と首、赤い目が特徴的なカモです。胸は黒く、体は灰色をしています。いきなり水面から消えて、あらぬところから浮いてくるのでびっくりさせられることもしばしばです。全長約45cm。春日市には主に冬鳥として渡来します。水中にもぐって水草や水生昆虫、小魚等を食べます。鳴き声は「クルル、クルル」と鳴きます。

植生図凡例

シイ・カシニ次林	
コナラ群落 (Ⅶ)	
アカマツ群落 (Ⅶ)	
アカメガシワ・カラスザンショウ群落	
竹林	
水田雑草群落	
路傍・空地雑草群落	
ゴルフ場・芝地	
緑の多い住宅地	
造成地	
開放水域	
市街地	

凡例

マガモ	●
ハシビロガモ	●
コガモ	●
ヨシガモ	●
ヒドリガモ	●
ホシハジロ	●
キンクロハジロ	●

0 100 200 500 1,000m

「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査
環境省 自然環境局 生物多様性センター」から参照・編集



● **正行寺春日山雅楽御堂（写真1）**
浄土宗正行寺の雅楽御堂です。朝夕、カササギの鳴き声や姿を見る事が出来ます。

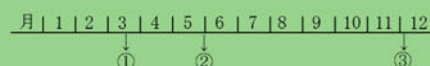


● **クリーンパーク南部（写真2）**
焼却処理施設です。施設の周りを囲んでいる山林内で、カササギの営巣から巣立ち（5月頃）まで観察出来ます。



● **営巣中の看板（写真3）**
九州電力の看板です。12月～3月の時期、電柱にカササギの営巣を確認し、停電などの危険がない限り「カササギ営巣管理中」の看板を設置し、巣立ちまで保護しています。

カササギ生活史



- 幼鳥 ①～②：誕生～巣立ち
親鳥の給餌の様子が観察できます。
巣立ち後1箇月程は親鳥と一緒に生活。
②～③：巣立ち後、若鳥の群れで生活。
群れでの行動が観察できます。
③～：つがいを形成してそれぞれ独立。
- 成鳥 ③～①：営巣
雌雄協同しての巣作りが観察できます。
①～②：繁殖
卵は5～6個産みます。
②～：縄張りの維持
子育て後、自分達の縄張りを維持するための、飛翔や採餌する姿を観察できます。

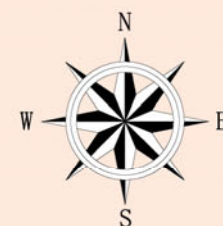
調査地点凡例

カササギ、カラス類営巣地点 (平成22年度九電データ)	●
カササギ目撃地点	●

植生図凡例

シイ・カシニ次林	
コナラ群落 (Ⅶ)	
アカマツ群落 (Ⅶ)	
アカメガシワ・カラスザンショウ群落	
竹林	
水田雑草群落	
路傍・空地雑草群落	
ゴルフ場・芝地	
緑の多い住宅地	
造成地	
開放水域	
市街地	

「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査
環境省 自然環境局 生物多様性センター」から参照・編集



春日市生き物マップ

カササギ



カササギは、九州北西部の佐賀平等のせまい地域に生息していた鳥です。近年は春日市にも分布を広げています。

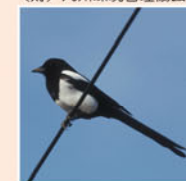
もともと日本にはいなかった鳥で、豊田秀吉の朝鮮出兵の際に「勝ち勝ち」と鳴く縁起をかつがれ、朝鮮半島から日本に持ち込まれたとも言われています。

カササギのもともとの生息環境は田畑が広がる里地の社寺林ですが、近年の宅地開発等にもめげず、高木ならぬ電柱にハンガー等を用いて巣をかける姿には目を見はるたくましさを感じます。

福岡県の「福岡県レッドデータブック」で保全対策依存種に指定されるなど今後の分布の動向が注目されることから、春日市の注目すべき動物として選定しました。

カササギは別名カチガラスの名で親しまれています。

(財)九州環境管理協会



●カササギ

スズメ目カラス科に分類されています。尾が長く体長は45cmほどで雌雄同色で肩羽、初列風切羽、腹羽が白色で体の残りの部分は黒色です。食性は土壌中や地面に生息する虫（クワ、ハサミムシ、コオロギ等）、カエル、ザリガニ、穀類、木の実はバラエティーに富んでいます。鳴き声は「カジャカジャカジャ」や「カッカッカ」です。



●カササギ営巣

12月～3月にかけて木や電柱に、木の枝、わらなどを用いて、球形で直径60cm～80cmもある大きな巣（大きなものは時に1m以上にもなる）を作ります。出入り口の穴は小さく斜め上方に開いていて、内には血状の産座があります。

0 100 200 500 1,000m

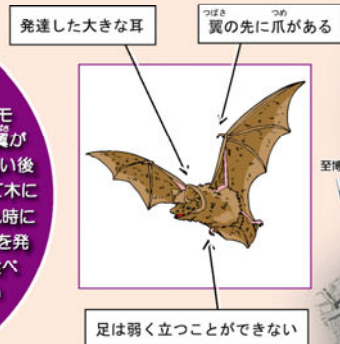
●アライグマ

頭胴長55cmほどで体重は4~10kgほどです。もとは北米に生息していた動物ですが、ペットとして飼われていたものが野生化し日本で生息するようになりました。農作物を食い荒らしたり、人にうつる病気を持っている可能性があることから近年、問題になっています。「外来生物法」の特定外来生物に指定されています。



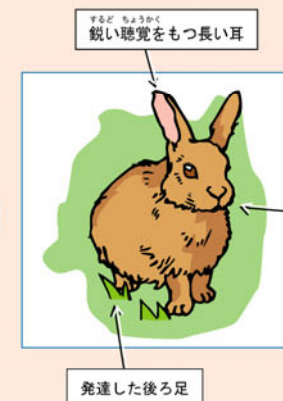
●コウモリ

市街地で見えるコウモリはアブラコウモリで頭胴長が5cmほどです。大きな翼があり空を飛ぶことができます。鳥類と違い後ろ足が弱く立てないため、逆さになって木にぶら下がっています。コウモリは夕暮れ時に飛び出し、人間には聞こえない超音波を発して餌を探ってくる音で虫を食べています。交尾は秋で、気温の低い冬場は冬眠し初夏に1~3匹の子を産みます。



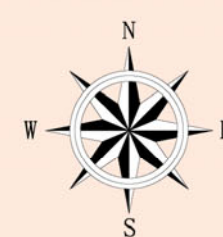
●ウサギ

ニホンノウサギは日本固有の種です。頭胴長は50cmほどで、里山の草原や森林を好みます。特定の果は作らず単独で生活しています。ほとんどの植物を食べ、冬には若枝も食べます。夜行性で昼間はヤブや木の根元で休みます。警戒心が強く長い耳で危険を察知し逃げます。春～夏にかけて子を生みますが西日本では1年中繁殖する場合もあります。1箇月ほどで親から独立します。



生育確認地点凡例

● イタチ
● タヌキ
● アライグマ
● コウモリ
● ウサギ



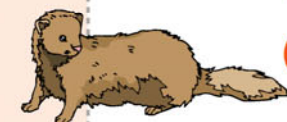
0 100 200 500 1,000m

「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査
環境省 自然環境局 生物多様性センター」から参照・編集

植生図凡例

シイ・カシ二次林	
コナラ群落 (VII)	
アカマツ群落 (VII)	
アカメガンショ・カラスザンショウ群落	
竹林	
水田雑草群落	
路傍・空地雑草群落	
ゴルフ場・芝地	
緑の多い住宅地	
造成地	
開放水域	
市街地	

春日市生き物マップ



哺乳類

小型～中型の哺乳類は、生態系ピラミッドの中でも頂点に近い場所に位置するものが多く、生息のためにはまとまった面積の緑地や、自然性の高い樹林地を必要とします。そのため樹林地を評価する指標（物事を判断するめやす）として使われます。

野生動物の交通事故死は不幸な出来事ではありますが、日常ではあまり目にするものがない動物たちの生活をかいま見せてくれる瞬間でもあります。このマップは春日市が把握している平成20年から23年にかけての野生動物の轢死（車等にひかれて死ぬこと）情報をまとめて整理したものです。

●イタチ

日本に昔からいるイタチはニホンイタチですが、最近外国から持ち込まれたチヨウセンイタチが増えています。頭胴長は雄が32~44cm、雌は28~33cm、シッポは雄が17~22cm、雌は13~18cmです。水辺で昆虫、魚、カエルやヘビを食べます。また、ネズミやウサギなども食べます。4~5月に4~6匹の子を産みます。秋には子どもは独立します。

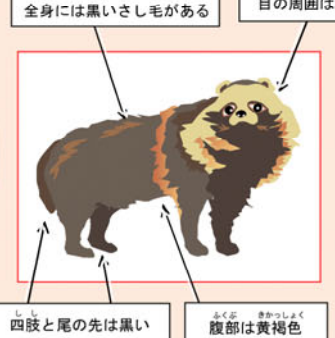
毛は夏はチョコレート色で、冬は明るい黄褐色



●タヌキ

頭胴長50~60cmのすんぐりした体型で、シッポは15~18cmほどです。ほぼ夜行性で、日没後と日の出前に活発に活動します。果実・昆虫・ミミズ・カエル・魚・サワガニ・哺乳類の死骸・人間の残飯など何でも食べます。初春に発情し5~6月には3~5匹の子を生み1箇月ほどで離乳し、冬までに独立します。非常に臆病で、車のライトにすくみ交通事故にあうことが多いです。

背中・毛は茶褐色
全身には黒いさし毛がある





●春日公園（写真1）

広大で森、林、芝生、池もあり、その他運動施設も整っている公園です。シジュウカラ、ウグイスの鳴き声や姿を観察できます。



●白水大池公園（写真2）

池、森、林が全てそろっている自然豊かな公園です。シジュウカラ、ヤマガラの鳴き声や姿を観察できます。



●弥生公園（写真3）

公園自体は小さな公園ですが、公園脇の「弥生の森特別緑地保全地区」に指定されている大きな森があります。シジュウカラ、ヤマガラの鳴き声や姿を観察できます。

（財）九州環境管理協会



●ウグイス

体長は15cmほどです。雄は雌より大きいです。背中が灰色を帯びた緑褐色で腹部は灰白色、全体的に地味で、雌雄同色です。夏場は主に虫を捕食し、冬場は植物の種子なども食べます。鳴き声は「ホーホケキョ」「チャッチャッ」などです。ちなみに「ホーホケキョ」と鳴くのは雄です。

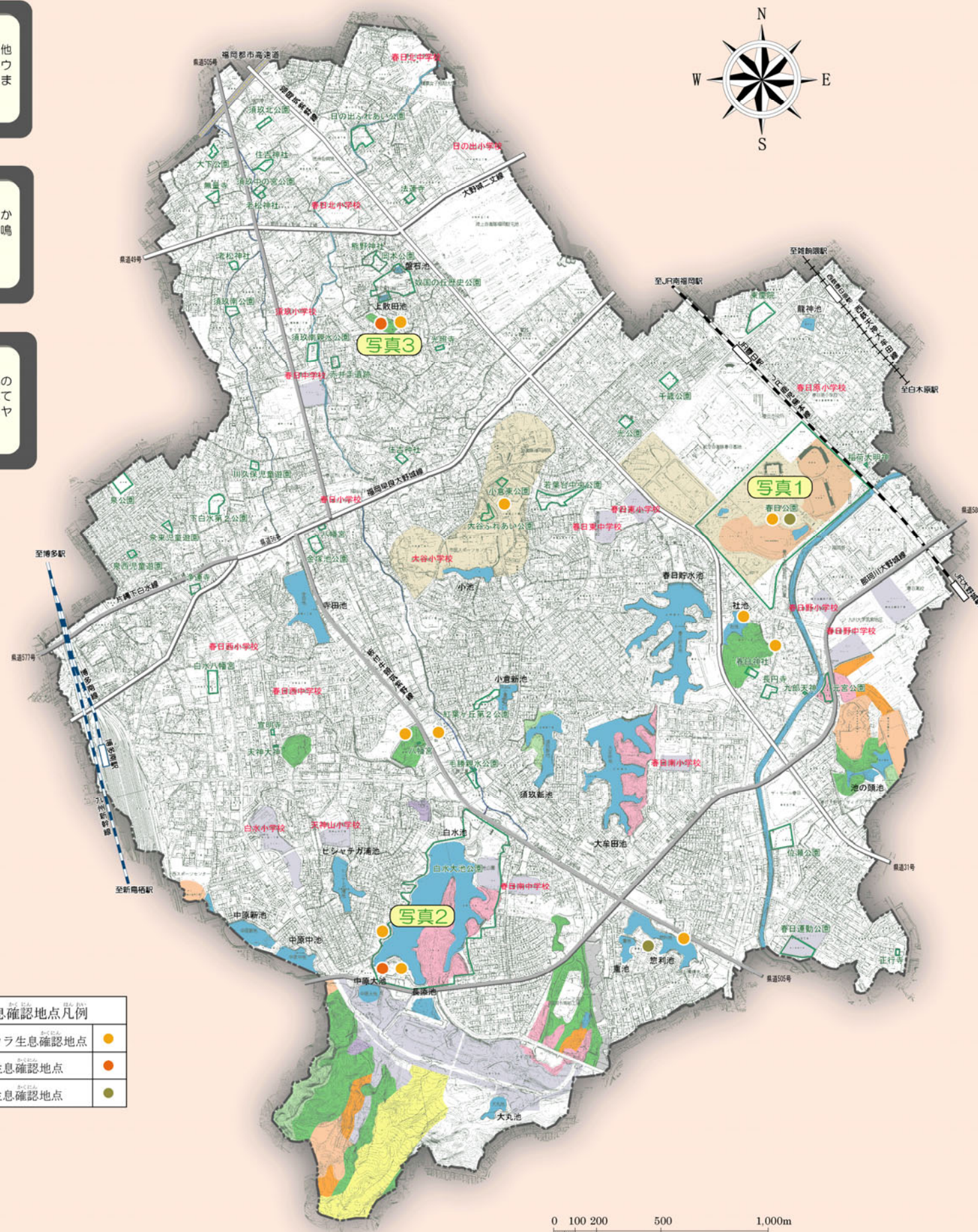
植生図凡例

シイ・カシニ次林	
コナラ群落 (VII)	
アカマツ群落 (VII)	
アカメガシワ・カラスザンショウ群落	
竹林	
水田雑草群落	
路傍・空地雑草群落	
ゴルフ場・芝地	
緑の多い住宅地	
造成地	
開放水域	
市街地	

「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査 環境省 自然環境局 生物多様性センター」から参照・編集

生息確認地点凡例

シジュウカラ生息確認地点	
ヤマガラ生息確認地点	
ウグイス生息確認地点	



シジュウカラ、ヤマガラ、ウグイスは、春日市で見られる山の鳥です。

生息環境は3種ともに樹林地ですが、ヤマガラがより広い面積の樹林地が必要なのにたいして、シジュウカラは街路樹にもやってきます。またウグイスは笹の多い林下や藪で生活しています。

春日市のような都市化の進む地域であっても、目にするのできる種類ですが、鳴き声や体の特徴などは、それほど知られていないようです。

身近に自然を感じさせてくれる、これら鳥達をここに紹介します。



●シジュウカラ

体長は14～15cmほどです。頭部から喉・胸・腹を通して尾に達する太くて黒い縦線があり、頬は白く後頸に白斑があります。上背は黄緑色、背は青灰色です。羽の根元には白斑があり、翼の1本の白線となってみえます。昆虫の幼虫・成虫、クモ類、植物の種子、果実を食べます。鳴き声は「ツビツビツビツ」です。

（財）九州環境管理協会



●ヤマガラ

体長は13～15cmほどです。頭部は黒い羽毛に被われ、顔から頬、後頸部にかけて明色斑が入っています。くちばしの根元から胸にかけて黒い帯状線が入ります。くちばしの色彩は黒です。後肢の色彩は青みがかった灰色、体下面は茶褐色で雌雄同色です。昆虫、くも、果実などを食べます。鳴き声は「ツーツービー、ツーツービー」です。



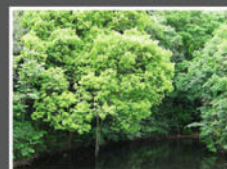
● 春日神社（写真1）

春日神社には県指定天然記念物のクスノキをはじめ大木が多くあります。また、神社の裏には「特別緑地保全地区」の春日の森があります。この地点では、たびたびアオバスクが自撃されています。



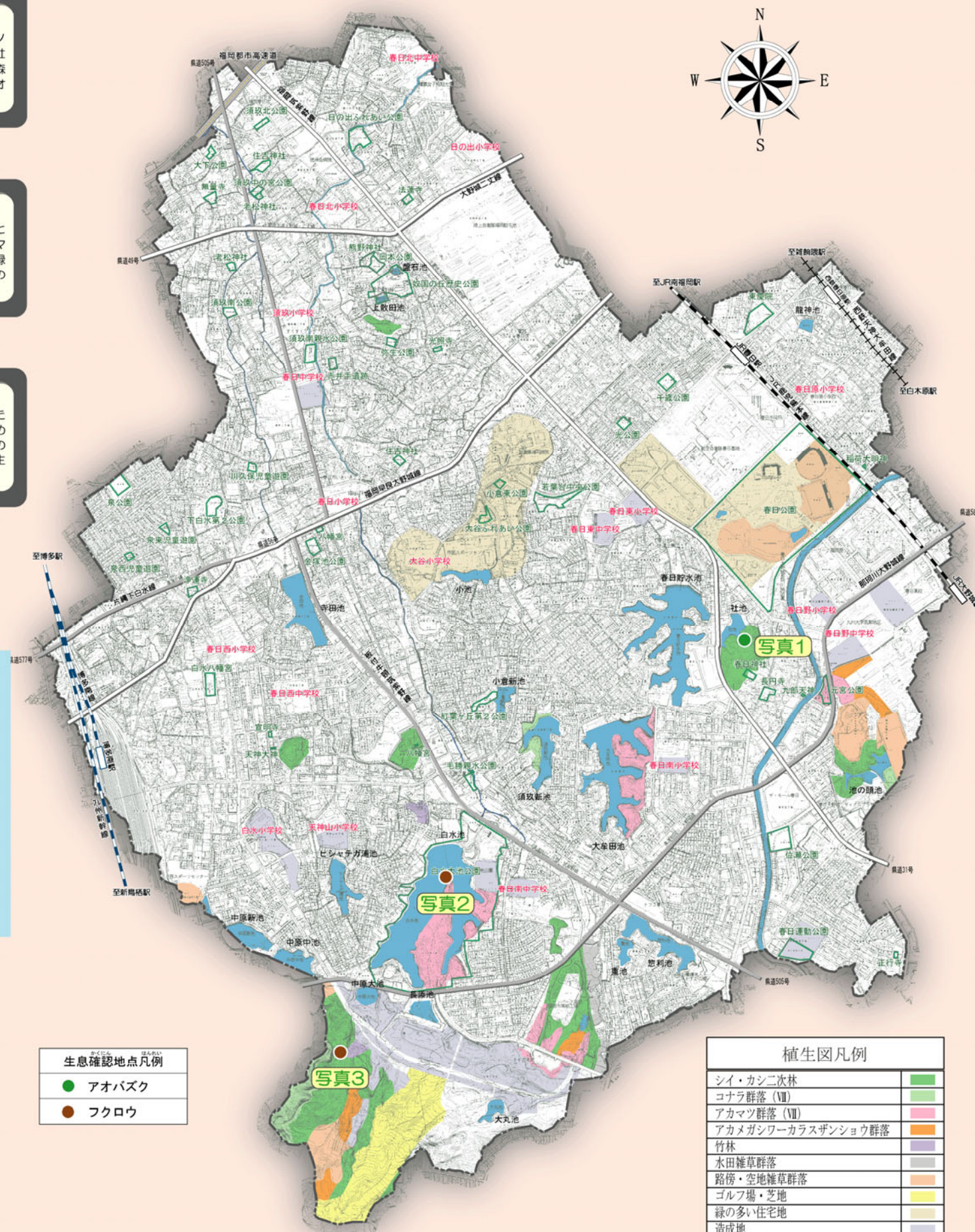
● 白水大池公園（写真2）

白水大池公園は、大きなため池を中心とした公園です。園内の中ノ島にあるアカマツ林をはじめ、沢山の樹木が植えられた緑豊かな公園です。春日市役所にフクロウの自撃情報が寄せられています。



● 春日市南部の林地（写真3）

上白水にある自然に近い状態で残された森林です。現在はゴルフ場増設などのため開発が進んでいます。スギやヒノキなどの樹木のほか、池のそばには、ヨシが多く生育し、フクロウが自撃されています。



アオバスク・フクロウは、フクロウの仲間の鳥類です。

アオバスクは、子育てのために5月頃、東南アジアの越冬地から渡来し、樹洞のある大木で営巣・産卵・子育ての後、10月頃には日本を去ります。

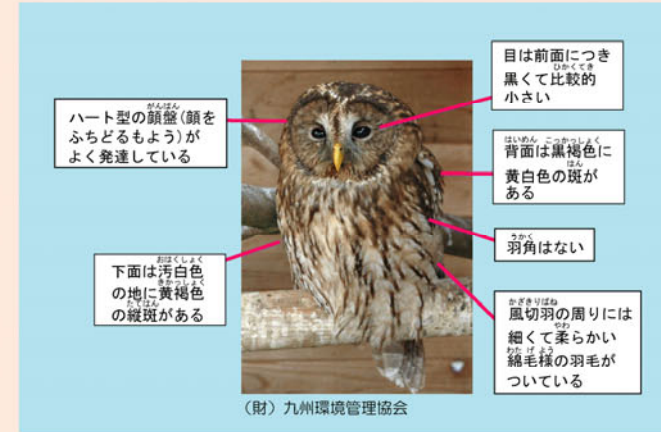
一方フクロウは、四季を通して観察することができます。しかし春日市では、都市化により巣穴となる大木や、えさ場となる樹林地が減少したため、個体数は減ってきています。

アオバスク・フクロウの観察を通して、春日市の自然に目を向け守りたいものです。



● アオバスク

アオバスクは中型のフクロウで、大きさはハト位です。虹彩(虹)の色が明るい黄色で、腹や尾に茶色と白色のやや幅広い斑や縞があるのが特徴です。夏鳥として渡来し、大木の樹洞や庭石のすき間などで産卵・子育てをします。食性はほぼ昆虫です。鳴き声は「ホッポー、ホッポー」または「ホイップ」と1声でさえずります。明け方や夕方に鳴きあいや活動する姿がよく見られます。



● フクロウ

フクロウは全長50cmほどの大きさで、黒色で小さな顔が特徴で、ハート型のよく発達した顔盤が特徴です。腹面は汚白色の地に褐色、背面は黒褐色に黄白色の縦縞があります。九州以北に留鳥として分布し、枯木の樹洞などで営巣します。夜行性で、食性は野ネズミなどの小型哺乳類のほか、野ウサギや鳥類を捕食します。鳴き声は「ホッポー」「ゴロスケホッポー」時に「ギャー」と聞こえる声で鳴きます。

「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査
環境省 自然環境局 生物多様性センター」から参照・編集



●白水大池公園（写真1）

白水大池公園は広大なため池を中心とした春日市民の憩いの公園です。県道505号線と580号線近くの園内に沢山のタンポポが生育しています。在来種のシロバナタンポポも見られます。



●春日公園（写真2）

運動施設を多く有する春日市を代表する公園です。歩道の周りに多くタンポポが生育しています。公園横の春日市役所駐車場に4月中旬過ぎより九州では珍しい在来種のカンサイタンポポの花が見られます。



●奴国の丘歴史公園（写真3）

歴史資料館と遺跡の周りに広場やため池や森のある、バラエティ豊かな公園です。資料館横の芝生や盤石池（ばんじゃくいけ）の周囲に外来種のセイヨウタンポポやアカミタンポポが見られます。

春日市生き物マップ



タンポポはキク科タンポポ属の多年草です。古来から日本に生育していた在来種と、明治時代にヨーロッパから持ち込まれた外来種があります。春日市では在来種のシロバナタンポポ、カンサイタンポポ、外来種のセイヨウタンポポ、アカミタンポポが確認されています。

一見よく似ていますが、それぞれ花や種の色、子孫の残し方などが異なり、在来種を抑えて外来種であるセイヨウタンポポやアカミタンポポが生育域を拡げています。

タンポポの観察を通して日本固有の種を守るための環境への配慮をしたいものです。

一見、よく似ているタンポポの仲間。在来種と外来種の大まかな違いは次の3点です。外来種の方がしたたかにみえますね。

- ①在来種の総苞外片は上方に圧着しているのに対し、外来種ではそり返る。
- ②在来種は春のみ花を咲かせるのに対し、外来種は一年中、開花する。
- ③在来種には少ないが、外来種の多くは花粉がつかなくても種子ができる。

＜タンポポの構造＞

●全体のつくり



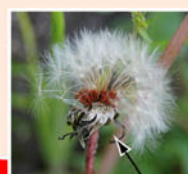
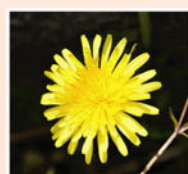
●実のつくり



●花のつくり



●春日市で見られる外来種



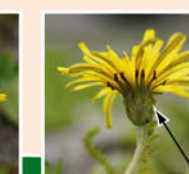
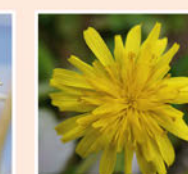
●アカミタンポポ

春に多く咲きますが、秋・初夏にも花が咲きます。生育環境はセイヨウタンポポと混在しますが、より乾燥の強い過酷な環境でも生育できます。花は黄色でセイヨウタンポポより頭花は小さく、そう果（種子）は半球形でアカミタンポポの名前の通り種子が赤褐色なのが1番の特徴です。セイヨウタンポポと同じく外来種で単為生殖ができ、総苞外片はそり返ります。

●セイヨウタンポポ

春・秋・初夏と年中花が咲きます。日本全国の都市の駐車場や空き地や道路脇の植込みによく見られます。花は黄色で花弁が多く、そう果（種子）は淡い褐色で綿毛が球体になります。外来種の特徴として総苞外片がそり返っています。また単為生殖が出来るため、1株だけでも急速に繁殖し周囲に分布を拡げるのが速い種です。

●春日市で見られる在来種



●シロバナタンポポ

春に開花しますが、春先早い時期はあまり開きません。中国・四国を中心に西日本全域に生育しています。角原や造成地などでは、背の高い個体が群生し、植込みに生育する個体は、単独で背が低く小さい個体が多いです。シロバナタンポポの名前の通り白い花を咲かせます。在来種で、総苞外片は圧着し、鳥の頭のような角状突起が特徴です。

●カンサイタンポポ

2月～5月頃、開花します。長野県以西の関西・四国・九州・沖縄で確認されていますが、九州では稀なタンポポです。農地周辺または市街地でも自然の残る場所が主な生育地です。花は黄色で頭花は小さく花弁はセイヨウタンポポのように密ではありません。在来種のカンサイタンポポは総苞外片がそり返らず、圧着しているのが1番の特徴です。

植生図凡例

シイ・カシ二次林	
コナラ群落 (VII)	
アカマツ群落 (VII)	
アカメガシワ・カラスザンショウ群落	
竹林	
水田雑草群落	
路傍・空地雑草群落	
ゴルフ場・芝地	
緑の多い住宅地	
造成地	
開放水域	
市街地	

「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査 環境省 自然環境局 生物多様性センター」から参照・編集

0 100 200 500 1,000m

※総苞外片（そうほうがいへん）：花と茎の間の部分

※単為生殖（たんいせいしょく）：花粉がなくても種子が出来る



●牛頭川_春日6丁目・春日5丁目 (写真1)
護岸ブロックにとまったり、牛頭川の水面上を飛翔するカワセミを確認しました。



●牛頭川_春日2丁目・春日3丁目 (写真2)
県道31号線の北東側でカワセミを確認しました。県道の端より数メートル先にホバリング、ホバリング後水中に飛び込む様子を確認しました。



●牛頭川_春日2丁目・春日3丁目 (写真3)
春日幼稚園付近にて、水面上を飛んでいくカワセミを確認しました。



●牛頭川_春日2丁目・春日公園4丁目 (写真4)
枝にとまっている雄のカワセミを確認しました。



●牛頭川_原町3丁目・春日公園3丁目 (写真5)
カワセミの親が子どもに餌を与えている様子を確認しました。



●春日公園_調整池 (写真6)
北側フェンスにとまっているカワセミを確認しました。

植生図凡例	
シイ・カシニ次林	
コナラ群落 (Ⅶ)	
アカマツ群落 (Ⅶ)	
アカメガシワ・カラスザンショウ群落	
竹林	
水田雑草群落	
路傍・空地雑草群落	
ゴルフ場・芝地	
緑の多い住宅地	
造成地	
開放水域	
市街地	

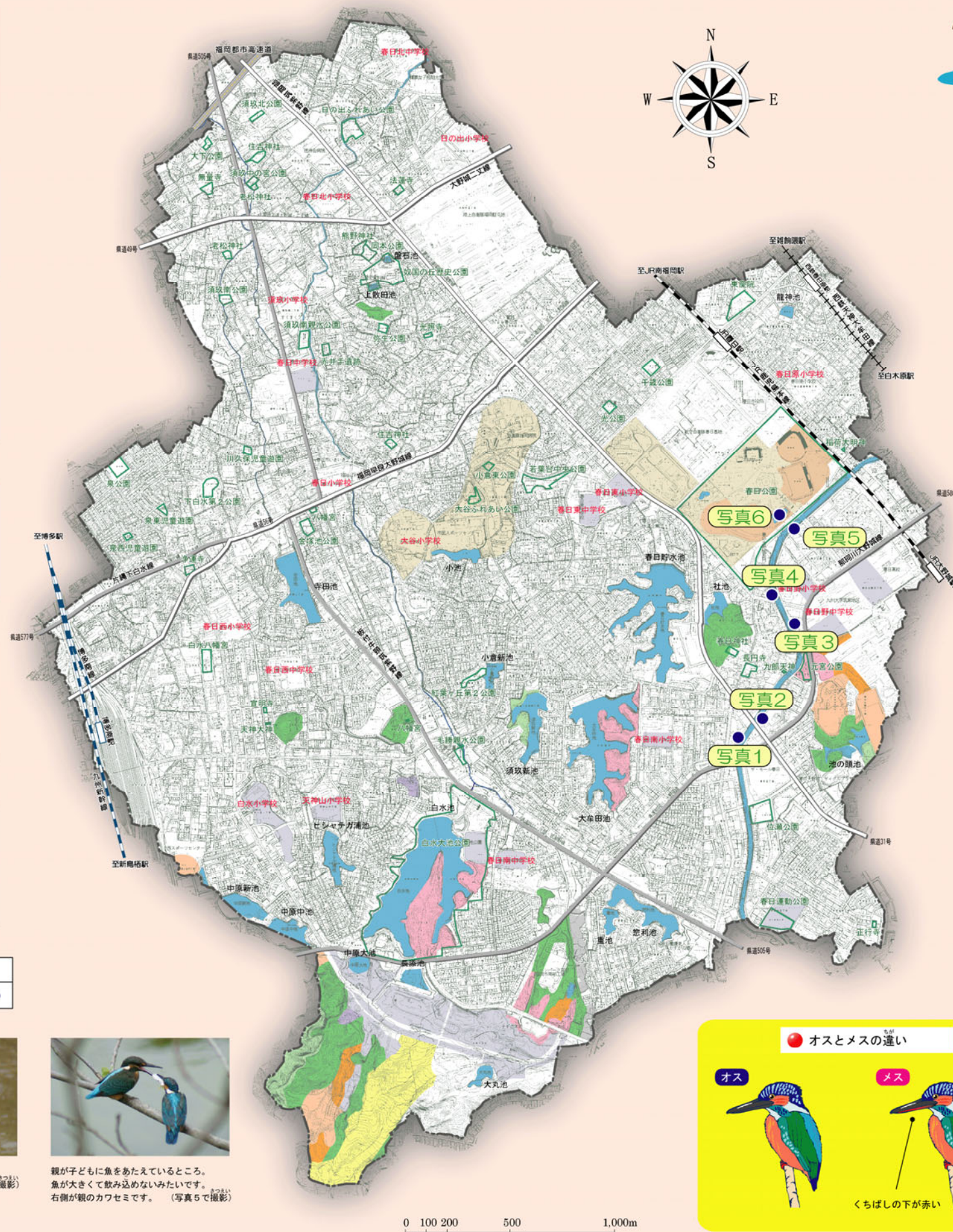
生息確認地点凡例	
カワセミ生息確認地点	●



枝にとまっているオスのカワセミ。(写真4で撮影)



親が子どもに魚をあてているところ。魚が大きくて飲み込めないみたいです。右側が親のカワセミです。(写真5で撮影)



春日市生き物マップ

水 辺 の 宝



カワセミは、春日市では1年中見ることが出来ます。
両翼の間からのぞく背中の水色が鮮やかで、光の当たり方によって緑色にも見えることから、漢字で翡翠（ヒスイ）と書き、その美しい外見から「水辺の宝石」とも呼ばれています。
エサを探るときには、水辺の石や枝から水中にダイビングし、魚や水生昆虫をくちばしで捕らえます。時には空中でホバリングしながら飛び込むこともあります。
春日市でも牛頭川沿いに生息しているので、「魚採りの王様」の妙技を観察に出かけましょう。



●カワセミ
ブッポウソウ目カワセミ科に分類され、体長は17cm程度です。くちばしが長く、頭が大きく、首、尾、足は短いです。頭、頬、背中は青く、のどと耳の辺りが白く、胸と腹と眼の前後が緑色、足は赤色です。採餌では、水中にダイビングして、魚類や水生昆虫をくちばしで捕らえます。川面を「チーッ」とか「ツッチー」という鋭い声を出して飛び回ることが多いです。

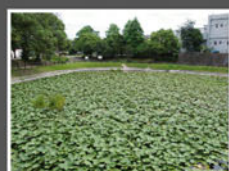




● 春日公園（写真1）
 広大で森、林、芝生、池もあり、その他運動施設も整っている公園です。芝生公園周りのクリークでメダカを観察できます。



● 白水大池公園（写真2）
 池、森、林が全てそろっている自然豊かな公園です。浅瀬のヨシが茂っている場所にメダカがいます。



● 盤石池（写真3）
 奴国の丘歴史公園内にある池です。池にはカダヤシがいます。

メダカ

オス

シリビレの基部が長い（カダヤシとの違い）
シリビレが大きい（オス、メスの区別）

カダヤシ

オス

細長いシリビレが特徴（オス、メスの区別）

メス

シリビレの基部が短い（メダカとの違い）

メス

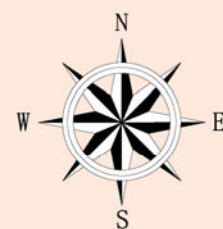
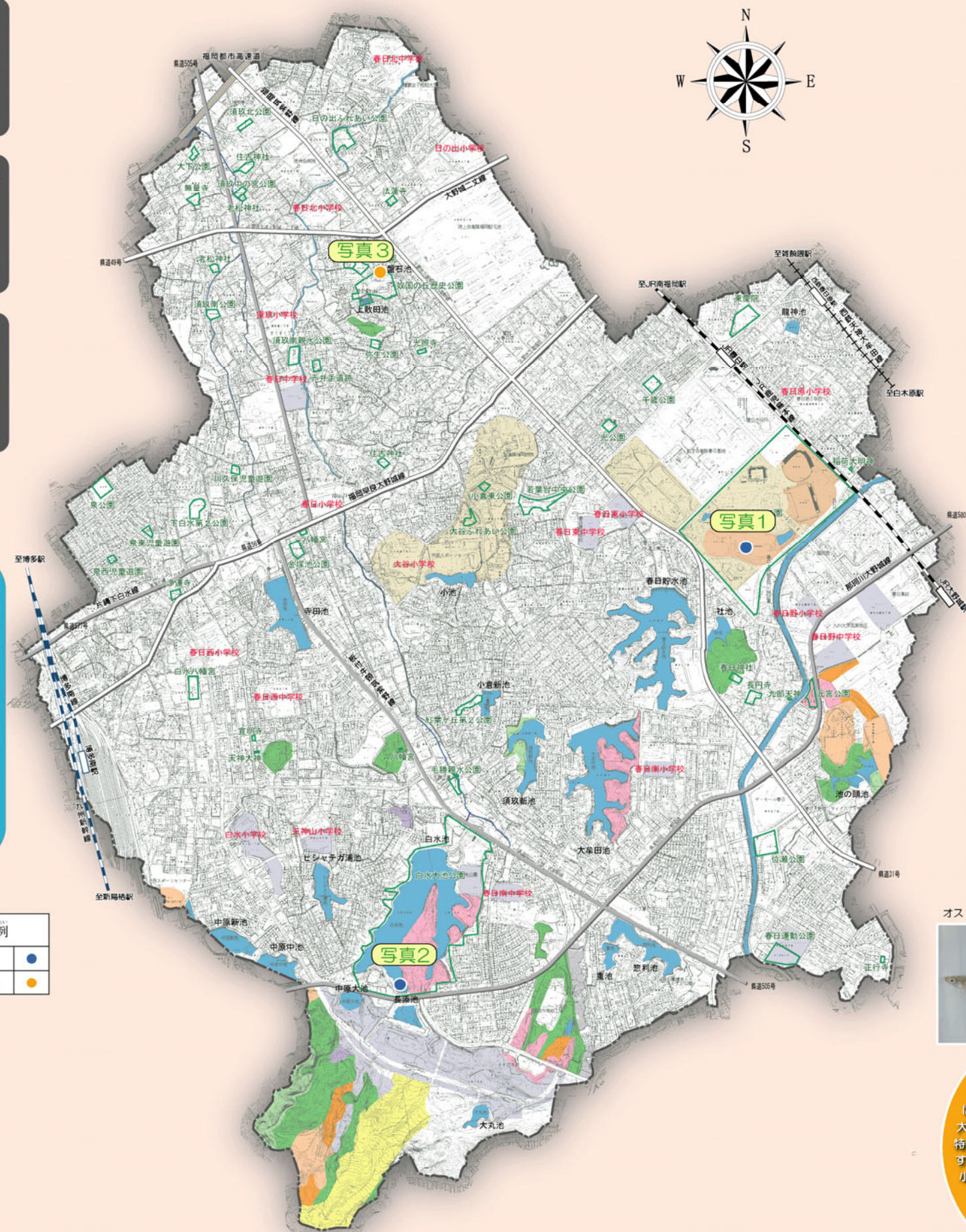
シリビレの基部が短い（メダカとの違い）

植生図凡例	
シイ・カシ二次林	緑
コナラ群落 (Ⅶ)	黄緑
アカマツ群落 (Ⅶ)	黄
アカメカシワ-カラスザンショウ群落	オレンジ
竹林	紫
水田雑草群落	水色
路傍・空地雑草群落	薄黄
ゴルフ場・芝地	黄緑
緑の多い住宅地	黄
造成地	白
開放水域	青
市街地	白

生息確認地点凡例	
メダカ生息確認地点	●
カダヤシ生息確認地点	●

「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査
 環境省 自然環境局 生物多様性センター」から参照・編集

0 100 200 500 1,000m



メダカは、童謡「めだかの学校」に歌われたように、私たちの身近で普通に見られる魚でした。ところが、農業や生活排水などによる生息環境の悪化や、流れの緩やかな小川の減少などで、今では絶滅のおそれのある生き物としてレッドデータブックにも挙げられています。

一方、メダカと姿がよく似た特定外来生物のカダヤシは、「蚊絶やし」という名のとおり、蚊の駆除（ボウフラの捕食）のために移入され、各地で分布を広げています。

2つの種は生活環境やエサが似ているため、しばしばライバルのように扱われていますが、春日市では、2つの種はそれぞれ別の環境に生息していて、どちらも限られた場所で見つかりません。

互いに争う以前に2つの種の生息をじゃまする何らかの原因があるのかもしれませんが。



●メダカ

ダツ目メダカ科に属して、全長は最大でも4cm程度です。茶色っぽい背中と白色の腹部をもち、上から見ると背を縦に走る黒いすじが目立ちます。食性は雑食で、動物性プランクトンや小さな落下昆虫なども食べます。一生を淡水中で送るものとして日本では最小サイズの魚です。環境省が発行しているレッドデータブックでは、絶滅が危惧される種として指定されています。

●カダヤシ

カダヤシ目カダヤシ科に属して、全長は雄が3cm、雌が5cmほどで雄のほうが大きいです。外見はメダカに良く似ていて、特に上からでは判断できないくらい似ています。食性は肉食性が強く、プランクトンや小型の水生昆虫、魚卵、稚魚などを捕食しますが、藻を食べることもあります。「外来生物法」の特定外来生物に指定されています。